

マーク・ザッカーバーグ

Mark Zuckerberg

ハーバード卒業式演説

(日本語訳: 編集部、許諾を得てマーク・ザッカーバーグ氏の Facebook アカウントから引用)

新たな社会契約を 私たちの世代が定義すべき番です。



#1: We all know you don't get successful just by having a good idea or working hard. You get successful by being lucky too. If I had to support my family growing up instead of having the time to learn how to code, if I didn't know I was gonna be fine if Facebook didn't work out, then I wouldn't be standing up here today.

And if we're honest, we all know how much luck we've had to get to this point in our lives.

Every generation expands its definition of equality. Previous generations fought for the vote and civil rights. They had the New Deal and Great Society. And now it's time for our generation to define a new social contract.

We should have a society that measures progress not just by economic metrics like GDP, but by how many of us have a role we find meaningful.

We should explore ideas like universal basic income to make sure that everyone has a cushion to try new ideas. We're all going to change jobs and roles many times, so we need affordable childcare to get to work and healthcare that's not tied to just one employer.

5月25日、Facebookのマーク・ザッカーバーグCEOは自身が大学生活を送ったハーバード大学の卒業式で祝辞を述べました。ひとりひとりが自分の役割を意識できる社会、「目的意識」を創造することの大切さを語って感動を呼びました。30分以上もの白熱スピーチから、ハイライト部分を抜粋します。



いいアイデアを思いついたから、一生懸命にがんばったからといって成功するわけではないことを我々はみんな知っています。成功には運も必要ですから。もし私がプログラムコードを学ぶ時間を持つ代わりに家族を養わなければならなかったとしたら、もし私がフェイスブックが上手くいかなくても何とかかなと思っていなかったとしたら、私は今日ここに立っていません。

正直であるならば、私たちはみな、人生のこの地点にたどり着くまでに、自分たちがどんなにツイていたかをわかっているでしょう。

すべての世代が平等の定義を拡大させてきました。前の世代は選挙権と市民権のために闘いました。それにより「ニューディール政策」と「偉大な社会政策」を実現しました。そして今、我々の世代こそが新たな社会契約を定義する番です。

GDPのような経済指標によってではなく、意義があると思える役割をどれだけの人々が持てるかによって進歩を測る社会をつくるべきです。

誰もが新しいアイデアに挑戦できる余裕が持てるようにユニバーサル・ベーシックインカムのような考えを検討してみるべきです。我々はみな何度も仕事や役割を変えることになるでしょうから、働くために手頃な値段の保育や、ひとつの雇用主に紐づけられていない健康保険が必要です。

語注

work out: 上手くいく / **expand:** 拡大する / **definition:** 定義 / **previous:** 前の / **New Deal:** ニューディール政策 / **Great Society:** 「偉大な社会」(ジョンソン大統領が提唱した社会福祉政策) / **define:** ~を定義する / **economic metrics:** 経済指標 / **explore:** 探求する / **universal basic income:** ユニバーサル・ベーシックインカム (政府がすべての国民に最低限の生活費を提供する所得保障の一種) / **cushion:** 緩和策 / **affordable:** 手頃な / **childcare:** 保育 / **healthcare:** 健康保険



マーク・ザッカーバーグ

Mark Zuckerberg

アメリカのプログラマー、起業家。ニューヨーク州出身。ハーバード大学在籍中にソーシャル・ネットワーキング・サービスサイト、「Facebook」を開発。2005年に同大学を中退。2010年、Time誌「Person of The Year」に選出。現在 Facebook の CEO を務める。

つながりを失った社会には、 「目的意識」こそが必要です。



.....
#2: One of my favorite stories is when JFK went to go visit the NASA space center, and he saw a janitor holding a broom and he asked what he was doing. And the janitor replied: “Mr. President, I’m helping put a man on the moon”.

Purpose is that feeling that you are a part of something bigger than yourself, that you are needed, and that you have something better ahead to work for. Purpose is what creates true happiness.

And you’re graduating at a time when this is especially important. When our parents graduated, that sense of purpose reliably came from your job, your church, your community.

But today, technology and automation are eliminating many jobs. Membership in a lot of communities has been declining. And a lot of people are feeling disconnected and depressed, and are trying to fill a void in their lives.

As I’ve traveled around, I’ve sat with children in juvenile detention and opioid addicts, who told me that maybe their lives would have turned out differently if they just had something to do—an after school program or somewhere to go. I’ve met factory workers who know their old jobs aren’t coming back and are trying to find their path ahead.

For our society to keep moving forward, we have a generational challenge: to not only create new jobs, but create a renewed sense of purpose.

私が気に入っているこんな話があります。J.F. ケネディ元大統領が NASA の宇宙センターを訪れたときのことで。彼は箒を持った清掃員を見て、何をしているのかを尋ねました。すると、その清掃員はこう答えました。「大統領、私は人類を月へと送るお手伝いをしているのです」。

「目的意識」こそ、自分は自分自身よりも大きな何かの一部であり、自分は必要な存在で、何かを良くするためにがんばろうと感じさせてくれるものです。「目的意識」こそが真の幸福をもたらすのです。

みなさんは「目的意識」を持つことがますます重要な時代に卒業式を迎えました。我々の両親の世代が大学を卒業したときは、「目的意識」は仕事、教会、コミュニティから確実に与えられるものでした。

しかし、今日では技術と自動化が多くの仕事を消し去りました。多くのコミュニティで帰属意識が減退してきています。多くの人々がつながりを失ったと感じ、落ち込み、人生の空虚を埋めようともがいています。

様々な場所を訪れるなかで、少年院の子供たちやモルヒネ中毒者と話す機会があったのですが、彼らはこんなことを言っていました。何かやるべきこと、例えば放課後のプログラムやどこか行くところがあれば、自分たちの人生はちがっていただろうと。自分たちの古い仕事はもう戻って来ないと知って、この先の進路を見つけようとしている工場労働者にも会いました。

社会を前進させるために、世代を上げて取り組むべき課題があります。仕事を産み出すだけでなく、新たな「目的意識」を創造するのです。

語注

janitor: 清掃員 / **broom:** 箒 / **graduate:** 卒業する / **automation:** 自動化 / **eliminate:** ~を消去する / **decline:** 減退する / **disconnect:** つながりを断つ / **depress:** 落胆させる / **void:** 空虚 / **juvenile detention:** 少年院 / **opioid addict:** モルヒネ中毒者 / **renew:** 更新する

